

モナルダ
Monarda didyma
 (シソ科)

宿根草であるが、秋まきの1年草として花壇、切り花に利用される。

1茎に5～6本の側枝があり、その先端に総状花序をつける。同じシソ科のサルビアのような花が咲き、花冠から雄しべと雌しべが髭のように飛び出す。開花する蕾は頂花序だけで、側枝花序はほとんど開花しない。流通は6～8月に限定される季節花。

後処理剤の効果は大きく、日持ちが延びるだけでなく、花径が大きく、花色が濃くなる。しかし、葉が糖の障害で黒変するので、規定より薄い濃度で使用する。

1) 品質評価基準

項 目	判 定 基 準	備 考
小花の開花と萎凋	主枝の頂花序の A: 1/2の小花が開花 B: ほとんどの小花が開花 C: 一部の小花が萎凋 D: ほとんどの小花が萎凋	頂花序だけで判定
葉の萎れ・褐変	A: 垂れない(葉柄が垂直より上向き) B: やや垂れるが褐変がない C: 垂れ、一部の葉が褐変 D: 多くの葉が褐変	
その他	茎基部の腐りなど	

2) 留意点

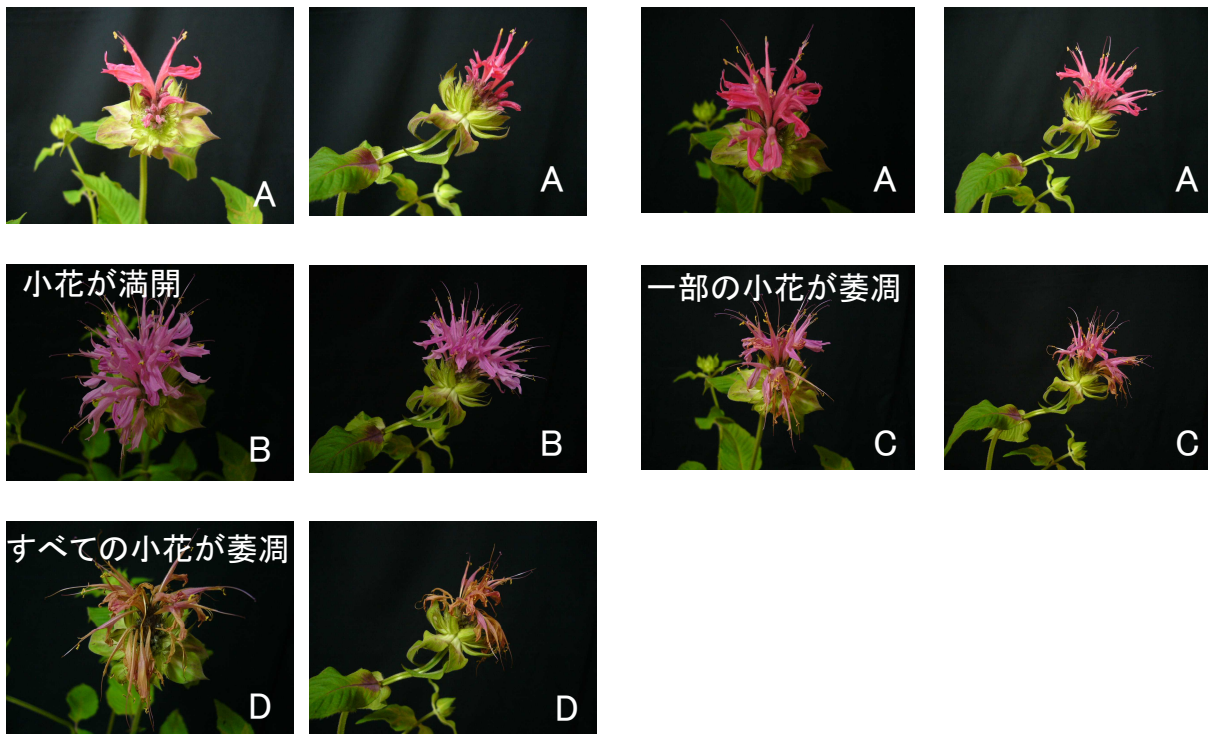
日持ちは、主枝の頂花の萎凋で判定する。

3) 開花



4) チェック事項

小花の開花



葉の萎れ・褐変



後処理剤の影響



花序が大きく花色が濃くなる



糖により葉が黒変